

鎮西山の自然に恵まれた上峰町
佐賀県三養基郡上峰町。人口9,556人(2018年2月末現在)、広さ12.80km²。佐賀県東部に位置している。町の北部にある鎮西山(標高202m)は四季折々の自然に恵まれており、頂上からは佐賀平野を中心に有明海、雲仙まで見渡すことができる。町内には古代の古墳や史跡、吉野ヶ里温泉がある。



ネットワークを活用し、運営をきめ細かくサポート

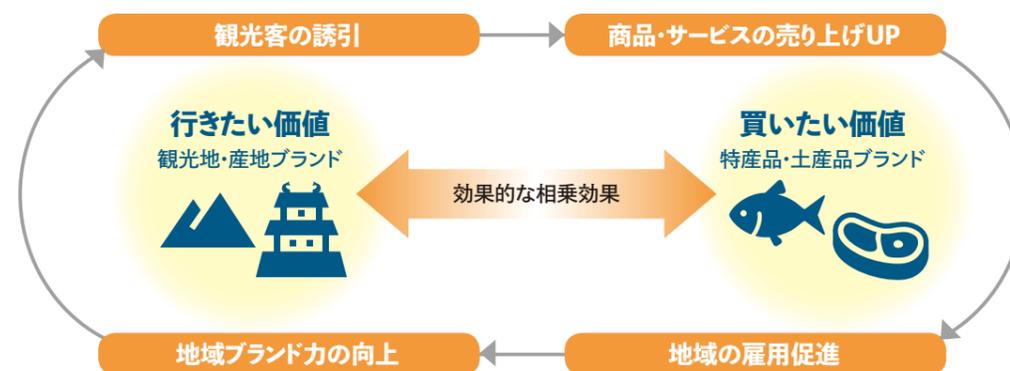
2017年3月、上峰町およびその周辺地域との緊密な連携のもと、観光地域づくりを通じて、循環する地域経済に寄与することを目的として一般社団法人起立工商協会きりゅうこうしょうきょうかいが設立されました。トッパンは、上峰町の活性化をDMOdestination management organization*2の取り組みとして継続的に推進することをサポートし、また、起立工商協会の連携事業者として、イベント等の運営やプロモーションに協力しています。

2018年2月には、第2回となる「上峰町つばきの森トレイル」が開催されました。大会には地元企業やメディアなどがスポンサー

として協賛したほか、ボランティアとして鎮西山ちんざいざんのふもとの住民の方々や、上峰町に駐屯地がある自衛隊員、地元の体育協会も協力を駆けつけてくれました。また、九州電力の社員の方々も、地域貢献事業の一環として大会をサポートしてくださいました。

参加者が走るコースは、トレランの専門家の意見を反映して、鎮西山の自然を楽しめるように整備しました。コース途中のエイドステーションでは食事や水を提供しますが、地元で採れたいちごを配ったほか、参加者に温泉無料券を配布したり、抽選会で特産品の佐賀牛を贈呈するなど、町の特産品などのPRも行いました。

■上峰町のタウンプロモーション



Case 1 佐賀県上峰町様

トレラン大会を通じて域外との交流を活性化

町外との交流人口の増加と町の活性化を目的に開催された「上峰町つばきの森トレイル」。トッパンではまちづくり、ネットワークの活用、イベント運営、プロモーションのノウハウを結集して、イベントをサポートしました。

トレイルランニング大会開催に向けた町の基盤づくり

上峰町かみねちやうでは、2015年に策定した地域再生計画「上峰町まち・ひと・しごと創生総合戦略」にあるまちづくりビジョンに基づき、さまざまな施策を展開しています。観光とスポーツ、歴史や特産物を組み合わせた町外人口の交流策の一つとして、上峰町の自然を生かしたトレイルランニング(以下、トレラン)*1の大会が2017年3月から開催されています。

トッパンでは、2016年6月に、改めて上峰町の現状と課題を整理し、観光地としての上峰町の魅力と、特産品の産地としての魅力をつなぎ、将来的に継続していくための人材育成も含めた「自走型タウンプロモーション」の実現を目指した基盤づくりを提案しました。

2016年度下期には、上峰町の関係者だけでなく、メディアや観光事業者なども交えたタウンプロモーションフォーラム「ふるさと振興会議」を立ち上げました。月1回のワークショップを通じて、

上峰町の魅力をどのように発信し、次の施策につなげるかということ議論しました。モニターツアーなどさまざまな施策を実施しましたが、トレラン大会に関しては、九州トレイルランニング協会や佐賀県内のスポーツショップなどの協力を仰ぎました。「つばきの森トレイル」という名称は、町の木であるつばきをもっとアピールしていこうということから名づけられ、ポスター等のビジュアルにもつばきが採用されています。



町の名所、鎮西山を舞台に繰り広げられた「つばきの森トレイル」

町の資産を有効活用して、内外に魅力をアピール

トッパンでは、登山家のコミュニティサイト「YAMAP(ヤママップ)」やランメディアの「effect(エフェクト)」を通じたイベントの告知、九州トレイルランニング協会のフェイスブックへの情報提供、町内へのポスターなど、プロモーションやクリエイティブも担いました。開催当日は県外からの参加者も多数参加いただき、大会は大いに盛り上がりました。

今後の定期的な開催を目指し、鎮西山周辺の整備として「つばきの森」によりふさわしくするためのつばきの植樹を行い、順次町内の観光ルートを整えていきます。また、吉野ヶ里温泉の敷地内で、拠点整備となるコンテナショップの設置などの取り組みを進めており、ふるさと納税の返礼品である特産品の販売を行います。

このように、単にトレランへの参加者を増やすだけでなく、上峰町の魅力をさまざまな場面でアピールして、町への理解や関心を深めてもらうことで、より多くの方に来ていただけるまちづくりを推進しています。

*1 自然の地形を生かした道、舗装路以外の道を守るアウトドアスポーツ。
*2 Destination Management Organization
観光庁では日本版DMOを、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人、と位置付けている。

次ページ

「第2回上峰町つばきの森トレイル」開催概要

開催日:2018年2月25日

種目:①ミドルコース 7km
②リレー 3km×5周(計15km)

参加費用:①ミドルコース 大人5,000円 高校生4,000円
②リレー 1チーム(2~5名)15,000円

コース:鎮西山を中心とした周辺エリア

参加人数:130名



スポーツを通じて、 町の人々も元気が出るまちへ

トレラン大会の開催をきっかけに町外から多くの人たちに来てもらいたい――。

まちの活性化についてさまざまな施策を展開する上峰町の武広町長と、イベント運営を担う起立工商協会の榎さんに、大会開催の成果と今後の抱負をうかがいました。



上峰町様からの声

「人と地域」をむすぶ、 魅力の発信拠点づくりを目指して

上峰町には、鎮西山周辺の自然や、古墳などの史跡、温泉などの観光資源があります。それにもかかわらず、周辺の鳥栖市や吉野ヶ里町に比べると知名度が低く、観光客誘致の点ではまだまだアピールできていないという課題がありました。2015年に「上峰町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、上峰町のまちづくりビジョンに基づいて取り組みを始めました。

具体的な施策では、「インパクトがある」「人々の記憶に残る」「印象に残る」ことをやらなくてはいけないと考えていました。その一つが「ふるさと納税」であり、これは町の特産品を知ってもらうことが目的でしたが、おかげさまで大変人気が出ました。実際、町に来ていただくための施策としては、トレイルランの開催ということになります。

何度も訪れてもらうための魅力ある環境整備

過去2回のトレランは、私も実際に参加してみました。初回は準備不足のため完走することができませんでしたが、2回目はゴールにたどり着きました。トレランは普通に走るのとは全然違います。のぼりが本場にきついです。でも自分で走ってみると、「ここはこうしたほうが」とか「こういうものがあつたら」とか改善点も見つかりました。鎮西山にはそのままでも景色の良いところがありますが、これから花や木を植えて、季節の移り変わりを楽しめるようにしていきたい。毎年上峰町に来てトレランを走ってもらったら、その違いがわかるようにしたいと思います。

最近絵になる景色のところで写真を撮るのがはやっていますが、やはり「写真映え」するようになるところに人が集まると思います。トレランのコースも、いろいろ工夫してフォトジェニックな場所を増やしていきたいですね。

それから、地元の高齢者のみなさんも参加できるような大会にしたいと思います。町ではタウンチャンネルを開設して、トレランの様子を放映していますが、やってみようかなというきっかけになればと思います。将来的には、比較的なコースを作った

り、ふだんから鎮西山を歩いている人たちにコースづくりに参加してもらうなど、トレランに関わる人をどんどん増やしていこうと考えています。

トレランはすでに人気もあり、いろいろなところで開催されています。目新しいことをやるというよりは、すでに行われているものの中から、どういうものが自分たちの地域に合うか、特色を出せるか、うまく根ざしていくことができるかという組み合わせを考えることが、行政の役割だと思います。走りながら上峰町の自然を楽しんでいただくことはもちろんですが、山があるといっても割となだらかな土地ですので、コースにきつい難所を設定するなど、他にはない特徴を出すようにしています。そういうことが来てくれた方の「記憶」や「印象」に残る魅力になるのではないかと思います。



鎮西山を「つばきの森」として整備する一環として、つばきの植樹を行っている



佐賀県 上峰町
町長

武広 勇平さん

2009年町長に初当選。当時29歳10カ月で全国最年少の町長となる。現在3期目を務める。



起立工商協会様からの声

走る人も走らない人も、 年齢を超えて参加できるイベントに

起立工商協会では、トレランのプロモーションや運営を行っています。これまで、事前告知は新聞などの紙の媒体がメインでしたが、トッパンさんの紹介でインターネットなどのデジタルのメディアも使いました。YAMAPやeffectさんなどの登山愛好家のサイトで告知を行い、多数問い合わせがありました。こうしたサイトでは、当日の写真をすぐに掲載してくれたり、また参加者の投稿などもあり、タイムリーに情報が発信されて、共感を得られたと思います。

当日はあいにくの雨で心配していましたが、実際に、閉会式で参加者とお話してみると、「上峰町には初めて来た」「どこにあるのかわからなかった」という方もいましたが、若い方から「地元の皆さんがやさしい」「また来年も来たい」と言われて、ちょっと心が躍る想いでした。

ゴールした人には温かい豚汁を提供しました。これは近所の社会福祉法人「ふれあい館」の方々に協力していただきました。近所の方が野菜をくれたりして、走ることができない人たちも、「協力できてうれしい」「来年はもっとたくさん作らない」といった声も

聞かれました。つばきの森トレイルは、さまざまな世代の方がいろいろな形で参加できるイベントに育ってきていると思います。

今後はもっとたくさんの方に来ていただけるように、少しずつ規模も大きくしていきたいと思っています。上峰町では将棋の王将戦も誘致していますが、こうしたイベントをカンフル剤として、町が潤う仕組み、活気づく仕組みを充実させていきたいですね。



一般社団法人
起立工商協会

榎 由美子さん

一般社団法人 起立工商協会

明治初期から国内の優れた美術工芸品、日本茶などを輸出し、文化産業の育成、魅力発信を担っていた団体を名前の由来とし、上峰町に新たな人やモノの流れを呼び込むために、2017年に設立。同年11月には、町の情報発信基地として、観光庁が選定する日本版DMOの候補法人として登録されている。

Promotion

YAMAP

参加者コミュニティから輪が広がる

スマートフォンで利用できるオフラインGPS地図アプリYAMAPは、累計ダウンロード数80万を突破。日本最大の登山アウトドアコミュニティを形成しており、登山アウトドア好きの人たちに高い人気を誇っています。全国の登山の情報が掲載されているほか、登山者が投稿するみんなの活動日記では、リアルタイムな情報やルートが共有されています。

「つばきの森トレイル2018」の開催に合わせてコミュニティ内に「トレラン部」が立ち上げられ、大会告知やコース整備、下見の様子などが事前に共有、大会終了後には参加者から多数の投稿が寄せられました。「YAMAP」を通じて大会の認知度が高まり、参加者の輪が広がりました。



「YAMAP」トレラン部のページ
みんなの活動日記
「YAMAP」の地図で見た今大会のコース

effect

ランニング専門メディアがバックアップ

福岡のランニング文化を盛り上げることを目的に、2016年に立ち上げられた「effect」は、福岡近郊の走る場所「ランアドレス」に焦点を当て、走るということに多角的に向き合うランメディアです。

今回、大会の告知やトレランの講座をサイト上で掲載していただき、参加者募集や「つばきの森トレイル」の普及にご協力いただきました。大会当日は、編集部の方々が実際に参加され、快走を繰り広げる大活躍を見せ、大いに盛り上がりました。



トレラン専用のページも人気